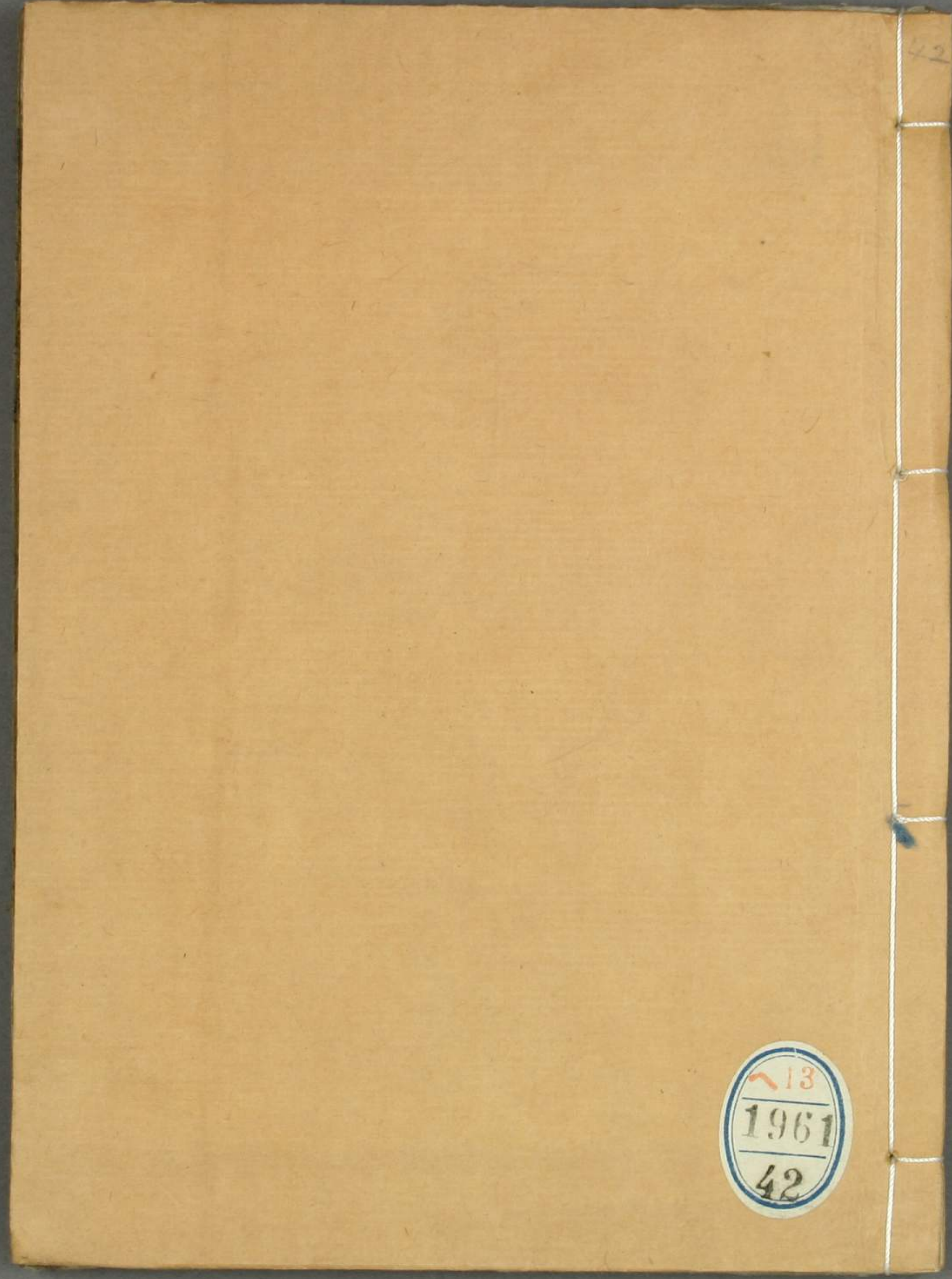
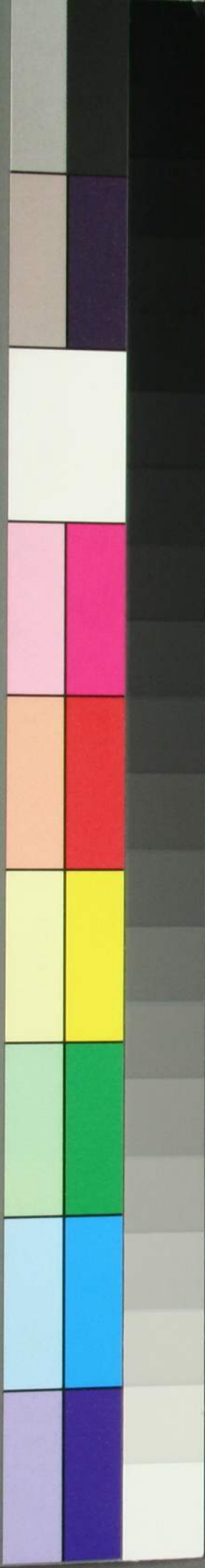


KODAK Gray Scale



13
1961
42

42





梁山一步談

附 垣の柳の鞠

上 板元通油町
峯の橋も牧笛と云ふの枝抄

遠
19
17

1961
42



水滸傳の元人施耐菴が所著羅漢冲亦補之
 雖釋說以て自教と垂小足於奇と云るに堪
 たり嘗て通信の書世に行るといふも未釋
 易覽と云ふを得と今也書肆
 乃て小諾と云ふを絶て寸と其莊道と記
 且紅翠齋の画紙需て尺董かん翫弄と授く
 尚追々數編と續で一部全うと云ふ
 欲而已

京傳序





附リ 作者 山東京傳
 是に史家比豪傑の九紋の頭

梁山歩談

彼ふり花れ山賊八百八乃
 星魁
 中板元通油町
 流とや

くもい... 太尉高休... 教頭王進...
くもい... 太尉高休... 教頭王進...
くもい... 太尉高休... 教頭王進...

大いおとらまき
ありを死
るる王



大并二

王進が父の棒と
 てもんがけらるる大なるこれ
 して何りきかぬあつてはけり
 さうり直るつて母も
 けりといひつりて
 おん出でし城のま
 のせにりつておん
 せよといひつりて
 地安村といふあつ
 のとに一月ばかり
 せよといひつりて
 ぬきしあつて
 とおんつらに
 大のまらるる
 目わてしつりて
 うつておん
 たりといひつりて
 家のあつ
 のつりて
 といひつりて
 酒食とす



王進が父の棒と
 てもんがけらるる大なるこれ
 して何りきかぬあつてはけり
 さうり直るつて母も
 けりといひつりて
 おん出でし城のま
 のせにりつておん
 せよといひつりて
 地安村といふあつ
 のとに一月ばかり
 せよといひつりて
 ぬきしあつて
 とおんつらに
 大のまらるる
 目わてしつりて
 うつておん
 たりといひつりて
 家のあつ
 のつりて
 といひつりて
 酒食とす



王進分りて二百
 のうち残りつる
 せやさうしあ
 るまやのんま
 りんう地の上
 丁人のりもの
 とぬきをわり
 せむひやう一
 物おとすま
 おりそわあ
 してくまて
 八九やなり
 ま進口ま
 かののたま
 五進と
 志中
 とのま
 のま
 うの
 せ
 け
 や
 こ
 の



七のち
 進も
 つい
 あり
 ひ
 こ
 と
 わ
 丁
 王
 年
 進
 い
 く
 毎



大井



王四の下のあふれ
 九紋龍史進
 跳淵虎
 史進
 この城を
 たらかろ



朱武揚春の
 史進
 乃の
 史進の
 乃の
 乃の

神機軍師
 朱武
 白花蛇
 揚春

史進は梁山泊の首魁にして、州縣の官に代り、
と名づけておんこさくを奉るも、いふに一人乃
大男、あつひひけりて、おんこさくを奉るも、
公をうりて、早ぬりて、おんこさくを奉るも、
府より、おんこさくを奉るも、おんこさくを奉るも、
なり、おんこさくを奉るも、おんこさくを奉るも、
おんこさくを奉るも、おんこさくを奉るも、
おんこさくを奉るも、おんこさくを奉るも、
おんこさくを奉るも、おんこさくを奉るも、

李忠
李忠



萬善鉉

九紋龍

提轄
魯達



作者 山東京傳

附リ 盛の花に 禅杖の 醉み満ちる
仁王に 脱

梁山平家伝

并ニ 限る 元通油町 下板元通油町

下板元通油町

かくて大酒の三杯不意の伏魔
 のつらき中へはじりて女のけり
 こえりてはよりしれは老を達
 大さるへりそのゆへに
 さふいけす生れうらさ
 十九のむすあまふ千むらり
 のらう入るい出はれはむ
 すめいれとさふあうり
 の西ん志もくあそとる
 茶連しつひあふさふひ
 舞とすみですにさふり
 のゆえをさるりのゆりけ
 おやさりてあはれゆり
 ひれあはれくとあまふ
 鄭屠ありののまをさほそ
 三毛もあうりさふ
 かつかんきんさふ
 ありとさうりなれを
 ろくろぬひんのもれ
 切りひるきんとあふ
 時日まをさふ
 めんじやう
 まの史進



史進

魯達

金翁

李忠

金氏翠連

